

---

9月3日 会場U 13:00-14:00

記念講演

エンジニアにとっての尺八と感性



水野 明哲  
工学院大学学長

機械工学の勉強を始めたのと尺八を始めたのはほぼ同時で、45年ほどが経過した。ヨーロッパから伝わった、合理主義の塊のような機械工学と、江戸時代から伝わるファジーだらけの尺八を両立してやってきている。エンジニアにとっての尺八は不思議で奥の深い楽器であり、尺八音楽は人の心を揺さぶることができる表現力を持つ。この場を借りて以下のような点について言及したい。

- 1) 尺八の構造と発音原理
- 2) 尺八の楽譜のあいまいさ
- 3) 尺八の技法
- 4) 尺八の製作
- 5) 右脳と左脳
- 6) 趣味とプロ
- 7) 海外での尺八演奏
- 8) 良い音を出すためのプロセス

最後には少し尺八の音を聞いていただくことにしたい。

---

## プロフィール

水野 明哲 (みずの あきさと)  
工学院大学学長、同工学部機械工学科教授

1945年大阪に生まれる。大阪府立大手前高等学校卒業。

東京大学工学部機械工学科、同大学院修士課程修了後、大阪瓦斯株式会社に勤務。その後、東京大学大学院博士課程に入学、修了後、本学に教員として入職。旧西ドイツ・ゲッティンゲン及びルール大学ボッフム招待研究員、本学機械工学科教授等を経て、2009年4月より現職。

専門は、流体工学、トンネル換気の空気力学、数値流体力学。

長年にわたり、日本道路公団、首都高速道路公団などの主要なトンネルプロジェクトに委員長、委員として携わる。また、トンネル換気、防災設備調査のための施設調査団団長として幾度も海外の現地調査を行う。

トンネル内の空気の流れなどのシミュレーションをインターネットを通じて提供するベンチャー企業・(株)FITUT研究所取締役会長でもある。また、学生時代に尺八奏者の人間国宝・山口五郎に師事し、水野香盟という尺八奏者としての一面も持つ。著書に『流れの数値解析入門』等がある。